

ピアニスト、フランチェスカ・ハンの音楽はクラシックの繊細な感受性とロックの剥き出しな感情両方を獲得している。これらの両極端な音楽を経て今ジャズへのアプローチへと発展し、伝統に縛られず独創的な表現へと向かっている。

母国である韓国にて瞬く間に成功を収めた後、2004年にニューヨークへと乗り込んだ。クイーンズ・カレッジにてピアニストのデイビッド・バークマンとブルース・バース、トランペッターでありアレンジャーのマイケル・モスマン、そしてサキソフォニストのアントニオ・ハートの指導のもと、ジャズの修士学位を得る。また、ジェイソン・モランやラルフ・アレッシと共に学んだ経験も持つ。ニューヨーク在住の8年間で、様々なジャズミュージシャンと一緒に沢山の会場（リンカーンセンターのディジーズ・クラブ、92nd ストリート Y、キタノ、ソフィア、ガレージ、ファットキャット、スモールズ、クレオパトラズ…など）でプレイし、ジャラソム・ジャズフェスティバル、台中ジャズフェスティバル、ペナン・ジャズフェスティバルなどの国際的なジャズフェスにも参加してきた。

カルテット・ジャユとのジャマイカセンターでの共演は、ジャズと伝統的な韓国音楽との融合であるとして賞賛を受ける。

2009年に発売された、自身の名を冠したデビューアルバム『Francesca Han』(M.M.Records)以来、フランチェスカの演奏は音楽的な境界を超えた深さが特色となる。

2012年にはニューヨークトリオ・カルテットアルバム『Illusion』と、初のピアノ・ソロ・アルバム『Ascetic』(Audioguy)をリリース。

ソウルで開催されたトランペッター、アレックス・シピアギンとのデュオ・コンサートのレコーディングを2014年にリリース(Audioguy)。

2015年にはスペシャル・アルバム『Blue Suns』(ILIL record)を、フリージャズ・インプロビゼーション・トリオのアヴァン・トリオ（サクソ：キム・オキ、ベース：キム・スンベ）でリリースした。

他にも新たなコンテンポラリー・オリジナル・ミュージックのアルバム『ICARUS』(Audioguy)をコリアン・トリオ（ベース：リー・スンヨン、ドラム：シン・ドンジン）でリリース。

2015年1月より東京に在住。

「フランチェスカは自身の表現の広げ方を探し求めるなかで、ジャズの豊かな伝統を探検している。デビューCDである『フランチェスカ・ハン』は名手たちの音楽と彼女自身の芸術性をまとめ上げた幅広い表現である。」

— ジェイコブ・タイクロー / www.jazz.about.com

「たった二度のレコーディングで、ハンの音楽は既に完成品のようにだった。『Illusion』は円熟した、直感的かつ大胆なミュージシャンによるもので、間違いなく注目されるべき作品である。」

— イアン・パターソン／All About Jazz

「『Blue Suns』ではザ・アヴァン・トリオは形式と自由の最高のバランスを実現しており最もしほりをゆるくした状態でもお祭り気分が音楽に流れている。みごとなコラボレーションの努力によるものだ。」

— イアン・パターソン／All About Jazz

「ハンの大胆な描写力の作曲法やリズムックでメロディックなひねりは、個々や全体でのインプロビゼーションの余地をたっぷり含んでいる。直感的でかつ、明確なパラメータの中でリスクを恐れない精神と共に、このトリオが弾けるような陽気な音楽を演奏し続けてほしいものである。」

— イアン・パターソン／All About Jazz